

病害虫情報(第9号)12月予報

令和4年12月1日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 12月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 …………… 1
【水稲、カンキツ、促成イチゴ、促成トマト、キャベツ、ダイコン】
- II 12月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 …………… 5

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和4年11月24日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 12月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
			※防除のポイント
縞葉枯病	—	—	※ 媒介虫であるヒメトビウカの越冬場所を減らす目的で次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②冬期～春期に畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	—	※ スクミリンゴガイの生存率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①冬期に水田を複数回耕起すると殺貝効果が高い。貝を破碎するため、耕うんは走行速度を遅くし、ロータリーの回転数を多くして浅く細かく耕す。 ②用排水路で生存している貝の対策として泥上げを行う。地区全体で実施すると効果が高い。 ③休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。 ④未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、トラクターなどに付着した泥は使用後に洗浄する。

【カンキツ】 生育:並(足柄地区事務所:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
			※防除のポイント
ハダニ類 ミカンハダニ	やや多	○	マシン油乳剤(95%, 97%, 98%) ^等 ※ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。
カイガラムシ類	—	○	※ 12月下旬～1月中旬の冬期に防除する。ただし、この時期に防除できなかった園では、ハダニを対象に収穫後の春期に防除する。 ※ カイガラムシ類は、冬期の防除が効果的である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和4年・第9号・12月)

神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日(生育期), 5回] 2,000～4,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日, 2回] 2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 等
アブラムシ類	並	○	ベネビアOD [前日, 3回] 2,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍 エコピタ液剤 [前日, -] アブラムシ類:100倍 コナジラミ類:100～200倍
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや少	○	
オンシツ コナジラミ	やや少	○	ボタニガード水和剤 [発生初期, -] 1,000倍 等
アザミウマ類	並	○	ベネビアOD [前日, 3回] 2,000倍 カウンター乳剤 [前日, 4回] 2,000倍 ボタニガード水和剤 [発生初期, -] 1,000倍 等
ハダニ類	並	○	スターマイトフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチ等への影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認する。

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和4年・第9号・12月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
灰色かび病	—	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, -:ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000～1,500倍 等												
アブラムシ類	—	○	【定植時:粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和] コナジラミ類、アブラムシ類、トマトハモグリバエ:1g/株 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] 1～2g/株 【定植後:散布】 アニキ乳剤 [前日,3回] ミカンキイロアザミウマ、コナジラミ類:1,000～2,000倍 ハモグリバエ類:2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類:2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ [前日,-] コナジラミ類:500倍 等												
コナジラミ類 タバココナジラミ	—	○													
アザミウマ類	—	○													
ハモグリバエ類	—	○													
			◆ ベミデタッチは7日間隔で複数回散布する。 ◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
			◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、単箱を施設から出し、単箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:ダントツ粒剤(20日)、アニキ乳剤(1日)、グレーシア乳剤(セイヨウマルハナバチ、クロマルハナバチ:1日)

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和4年・第9号・12月)

神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
菌核病	並	○	(予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 1,000倍 (予・治) カンタスドライフロアブル [7日,2回] 1,500倍 等 ❖ 発病株は菌核が形成される前に処分する。 ❖ 下葉からの感染が多いため、薬剤は株元にかかるように散布する。
コナガ	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回] 2,500～5,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),-]1,000～2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ダイコン】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒斑細菌病	並	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [14日,3回] 1,000倍 等 ☞ カセットは混合剤である。総使用回数に注意する。 ❖ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100～200倍)を加用する。
白さび病 (ワッカ症)	並	○	(予・治) アミスター20フロアブル [14日,3回] 2,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [3日,3回] 2,000倍 等
アブラムシ類	やや多	○	ベストガード水溶剤 [7日,3回] 1,000～2,000倍 等
コナガ	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [7日,3回] 2,500～5,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),-]1,000～2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和4年・第9号・12月)

神奈川県農業技術センター

II 12月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 12月の気象予報(気象庁 11月22日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	30%	40%	30%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	40%	30%	30%

*11月24日発表1か月予報による。

(2) 12月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや多	1) 県予察ほ(根府川)では、慣行防除園での発生が平年よりやや多い。(+) 2) 10月の巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
促成イチゴ	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来は、平年よりやや多い。(+) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや少 やや少	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年よりやや少なく(—)、タバココナジラミの寄生は見られず、発生は平年よりやや少ない(—)。 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」……………(+):多発要因 (—):少発要因

病害虫情報

(令和4年・第9号・12月)

…… 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
キャベツ	黒腐病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
ダイコン	黒斑細菌病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	白さび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来数は、平年より多い。(＋) 3) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
	ナモグリバエ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)
アブラナ科野菜	コナガ	－	並	1) 巡回調査では、キャベツでは発生が平年並(±)、ダイコンでは発生が平年よりやや多い(＋)。 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温、降水量ともに平年並の予報。(±)

※「発生量」……… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回